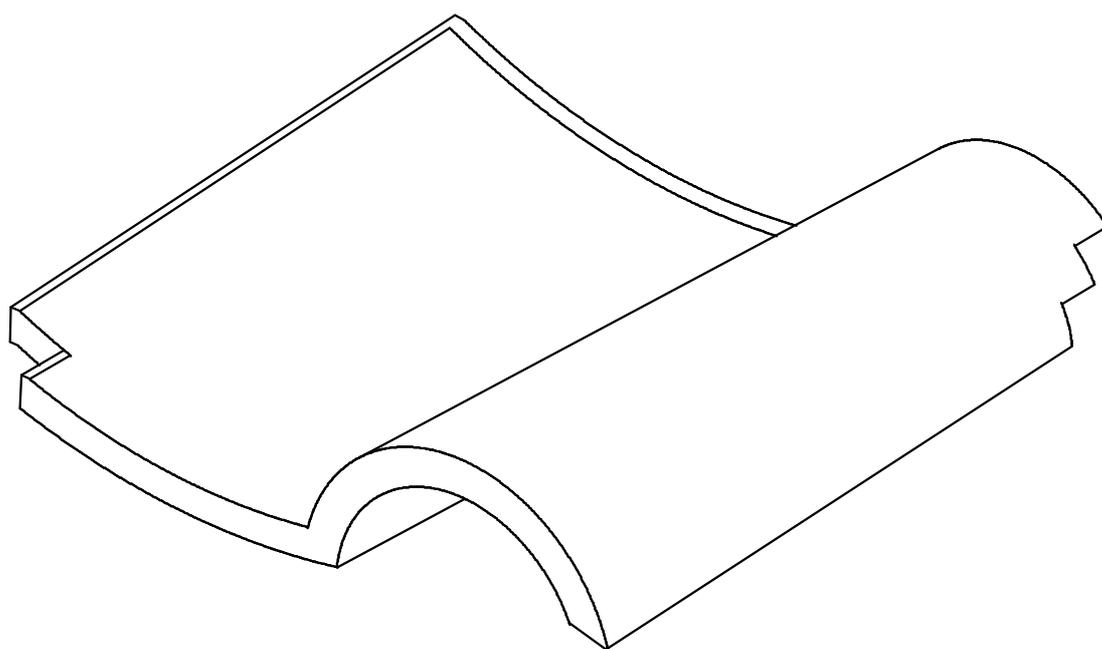


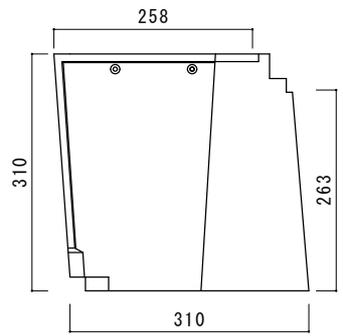
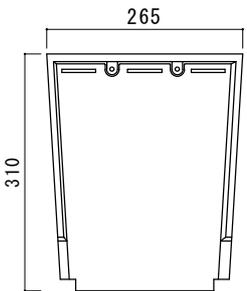
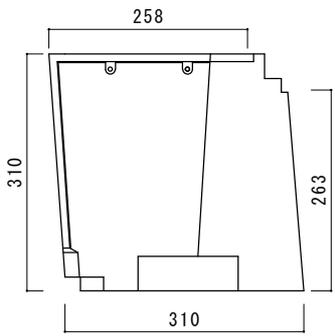
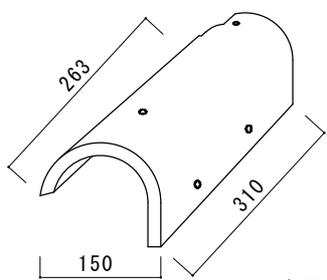
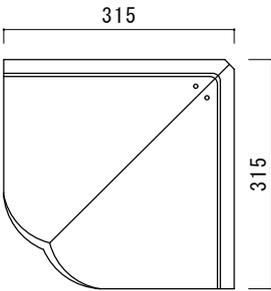
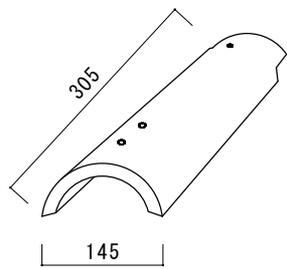
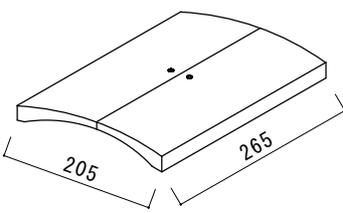
セラムー21 (S型陶器瓦)

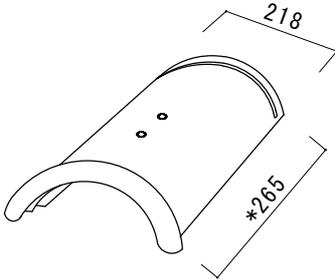
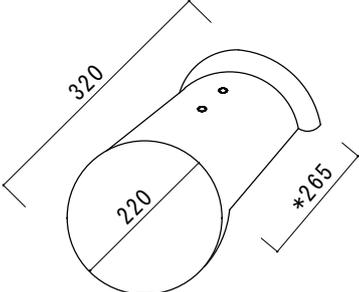
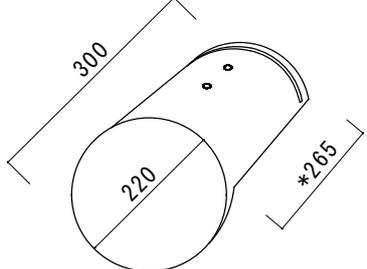
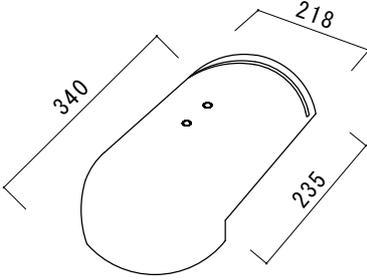
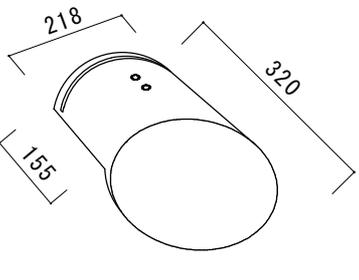
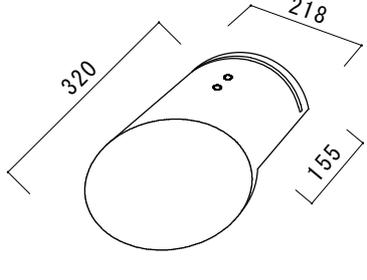
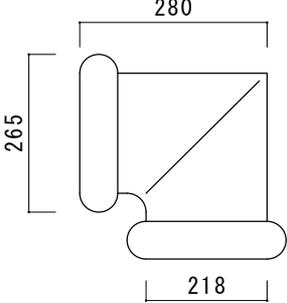
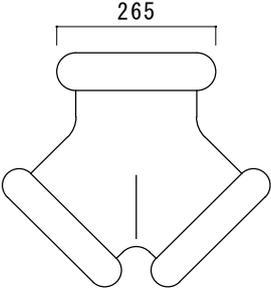
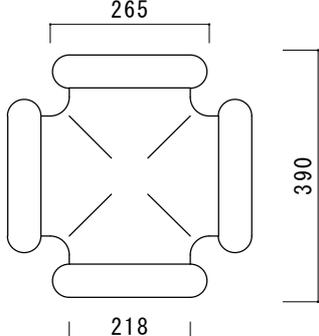
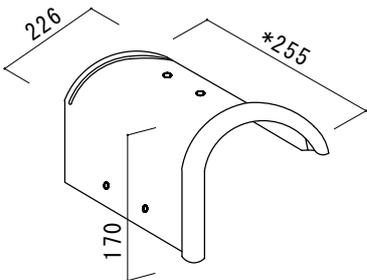
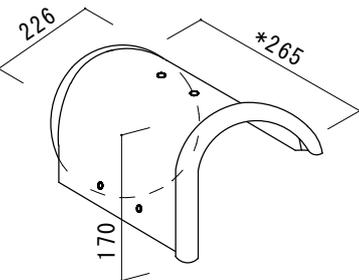
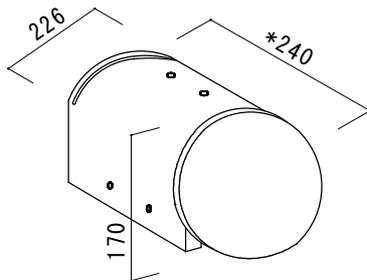
施工要領書

2020年改訂版

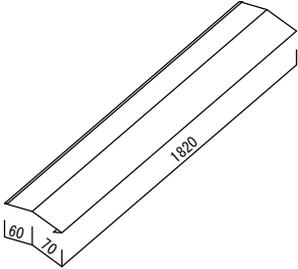
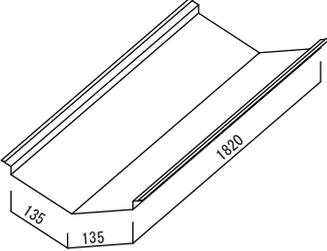
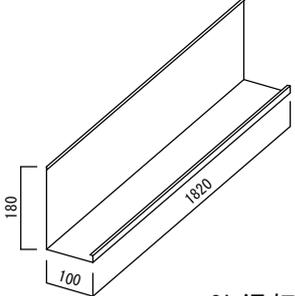
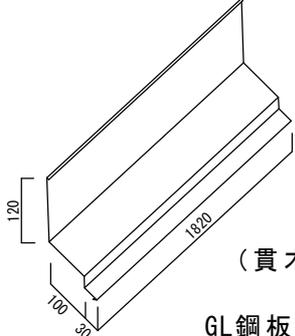
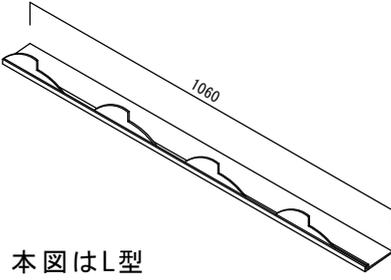
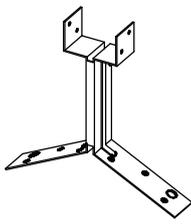
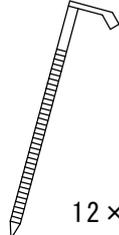
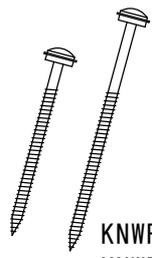


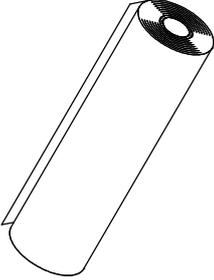
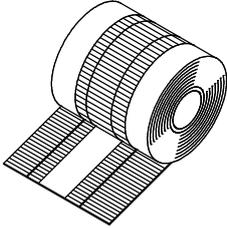
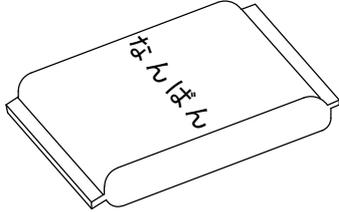
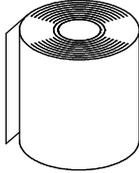
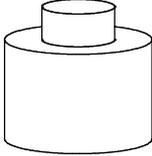
新 東 株 式 会 社

セラム21(S型陶器瓦)	部材一覧表(瓦)	
新東株式会社		
		
棧瓦	半瓦	雪止め瓦
 <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">本図は右</p>	 <p style="text-align: center;">利き幅260</p>	
袖瓦・左右	トンビ	トンビ丸
		
厚のし		

セラム 2 1 (S 型陶器瓦) 新東株式会社	部材一覧表 (瓦)	
		
7 寸 丸	7 寸 丸 止 め (付)	7 寸 丸 止 め (無)
		
7 寸 丸 カ ッ ポ ン	7 寸 丸 菱 巴 右	7 寸 丸 菱 巴 左
		
7 寸 丸 曲 り	7 寸 丸 三 つ 又	7 寸 丸 四 つ 又
		
7 寸 片 流 れ 丸	7 寸 片 流 れ 止 付	7 寸 片 流 れ 止 無

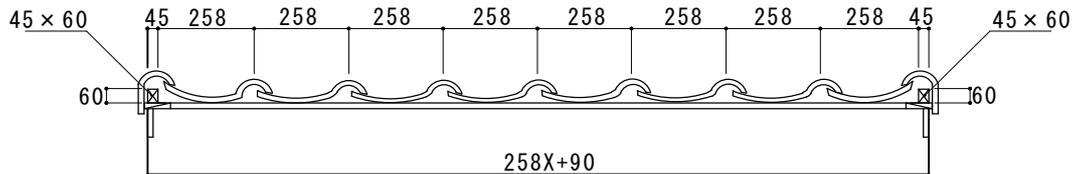
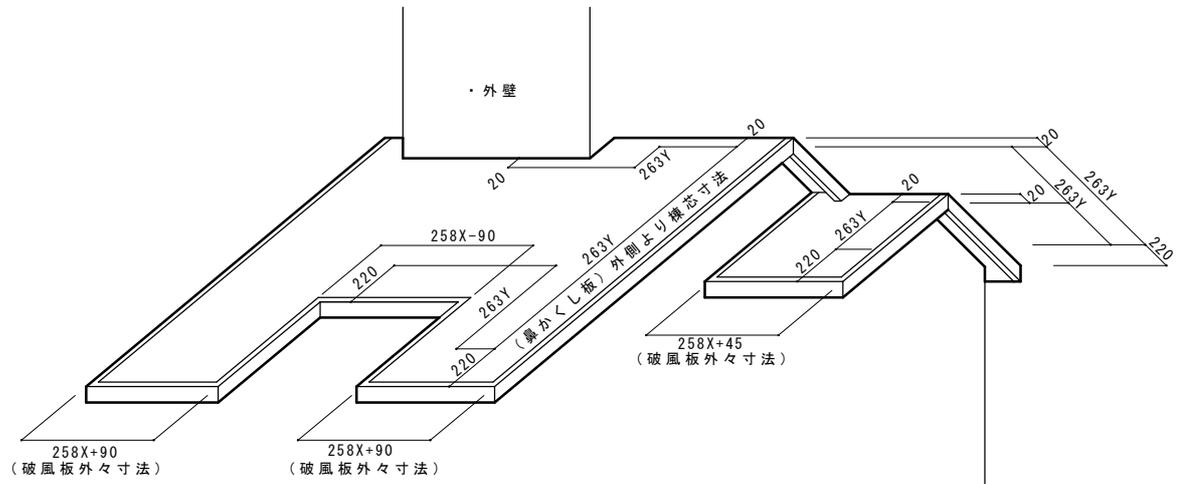
*は働き寸法

セラム21(S型陶器瓦)	部材一覧表(副資材)	
新東株式会社		
 <p>GL鋼板 t=0.4</p>	 <p>GL鋼板 t=0.4</p>	 <p>GL鋼板 t=0.27</p>
軒先メタル	本谷メタル	捨水切(壁)
 <p>(貫木用) GL鋼板 t=0.4</p>	 <p>本図はL型 色：白・黒・グレー</p>	 <p>SX-100, 115, 125</p>
平行壁メタル	軒面戸(I型, L型)	強力棟
 <p>棧瓦固定用 L=65</p>	 <p>12×75(100本/袋)</p> <p>軒先の瓦固定用</p>	 <p>KNWR-100B(100本/袋)</p> <p>軒先の瓦固定用</p>
ステンスクリュー釘	軒先クリップ°L釘	金さネジ
 <p>KNWR-50B(100本/袋) KNWR-75B(100本/袋)</p> <p>棟・袖瓦固定用</p>		
金さネジ		

セラム21(S型陶器瓦)	部材一覧表(副資材)	
新東株式会社		
 <p data-bbox="164 613 416 645">改質アスファルトルーフィング</p>	 <p data-bbox="596 618 963 649">波型瓦用5m×幅220～380mm</p>	
下 葺 き 材	ハ イ ロ ー ル	な ん ぼ ん
 <p data-bbox="169 1028 357 1059">150mm幅×14m 240mm幅×14m</p>	 <p data-bbox="600 1066 919 1097">刷毛付ペンキ缶(各色)</p>	
防 水 テ ー プ	補 修 液	

屋根寸法(野地板寸法)

■ 野地の割り付け



■ 軒の出と軒先1段目利き足との計算式

※ c = 瓦の出 b = 1段目利き足

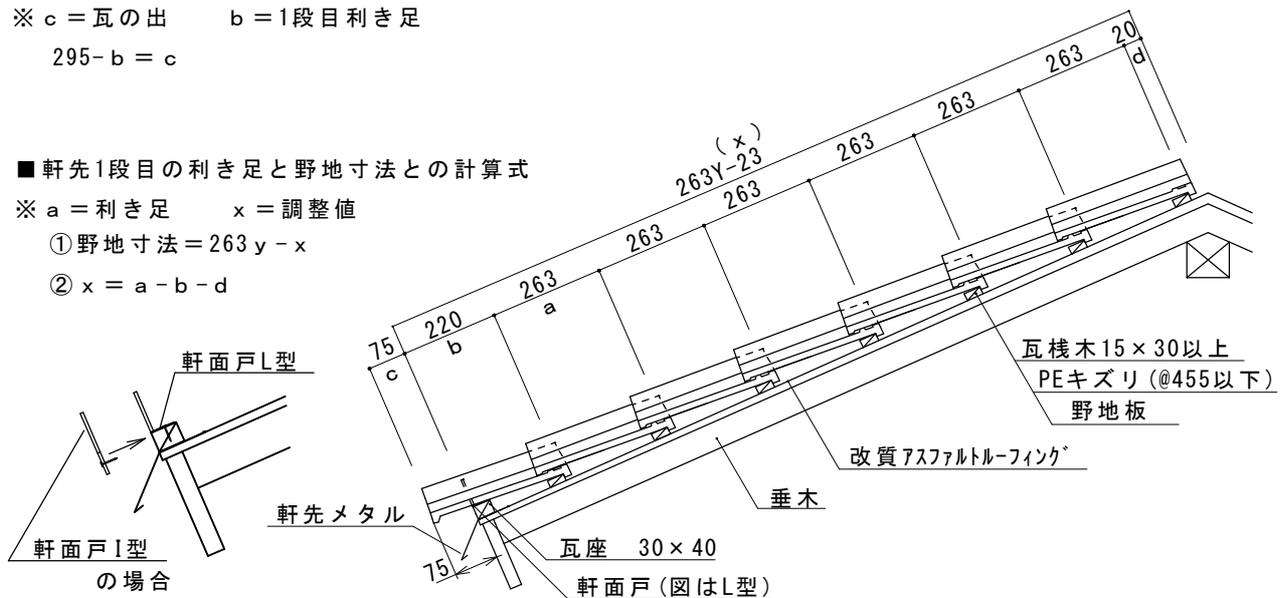
$$295 - b = c$$

■ 軒先1段目の利き足と野地寸法との計算式

※ a = 利き足 x = 調整値

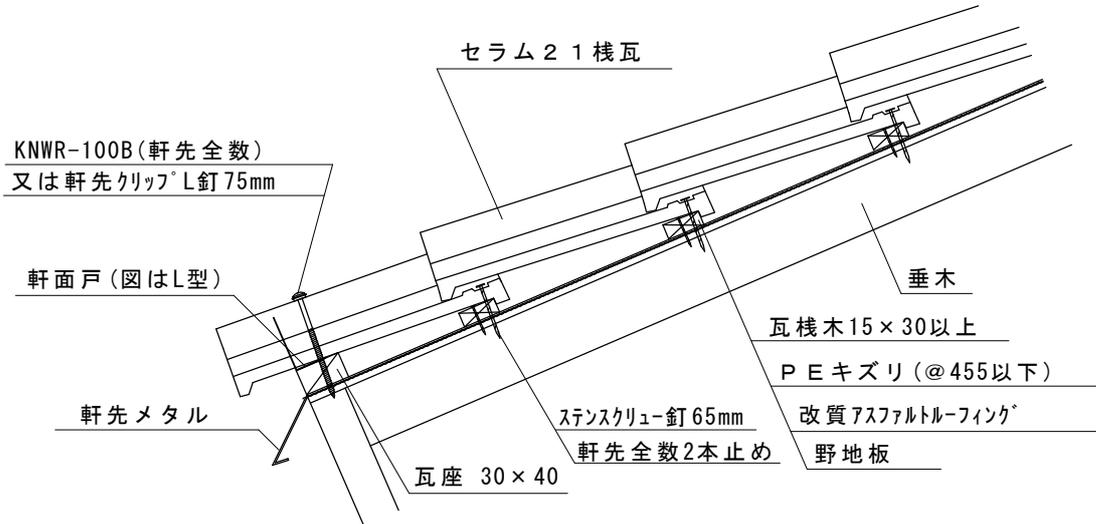
① 野地寸法 = $263y - x$

② $x = a - b - d$



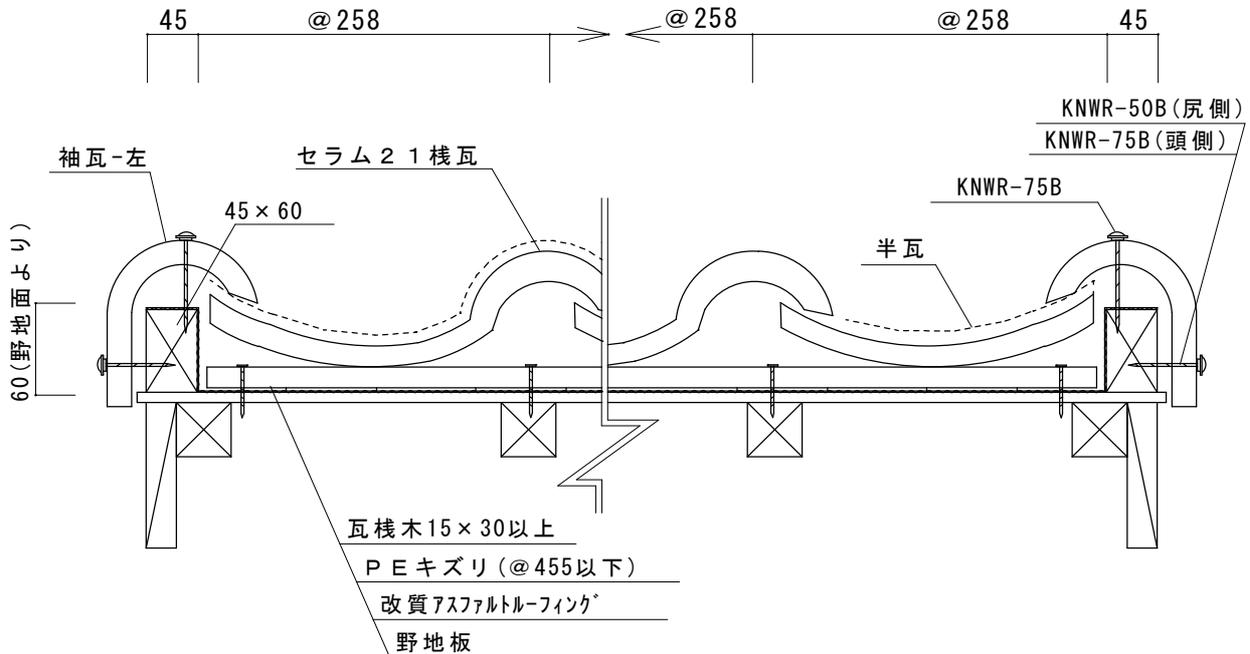
※瓦は焼き物の為、瓦の大小がやむをえず生じます。その為瓦棧木の施工ピッチ（利足）につきましては、現場の瓦の大きさを確認のうえ決めて下さい。

■ 軒先部納まり



軒先の瓦は、ステンスクリュー釘65mmを2本止めし、KNWR-100B又は軒先クリップ[®]L釘75mmを必ず使って固定して下さい。2段目以降の棧瓦は全数ステンスクリュー釘65mmを1本止めして下さい。

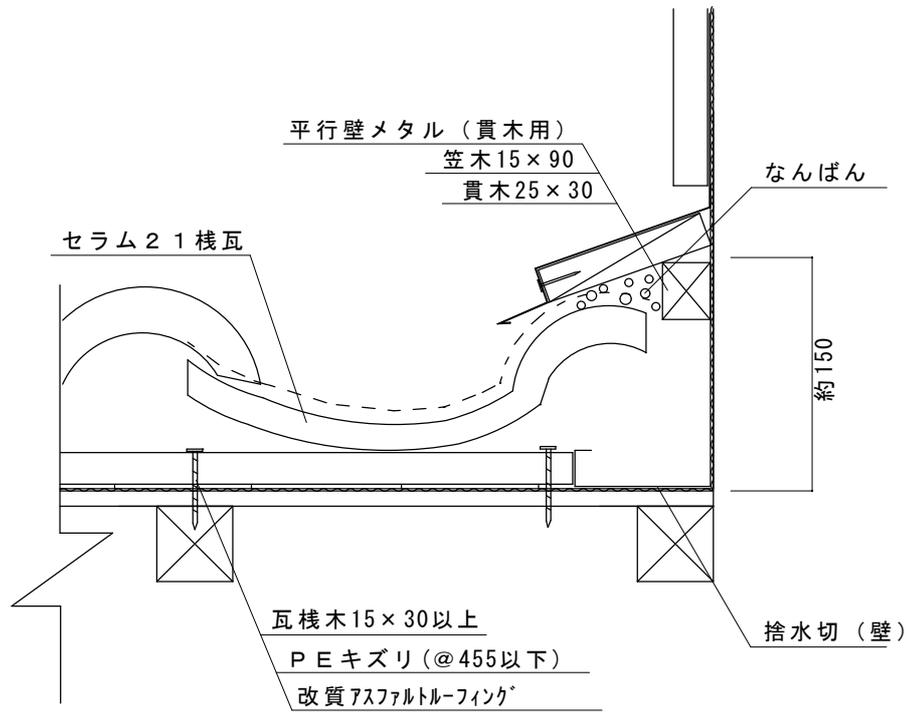
■ 袖部の納まり



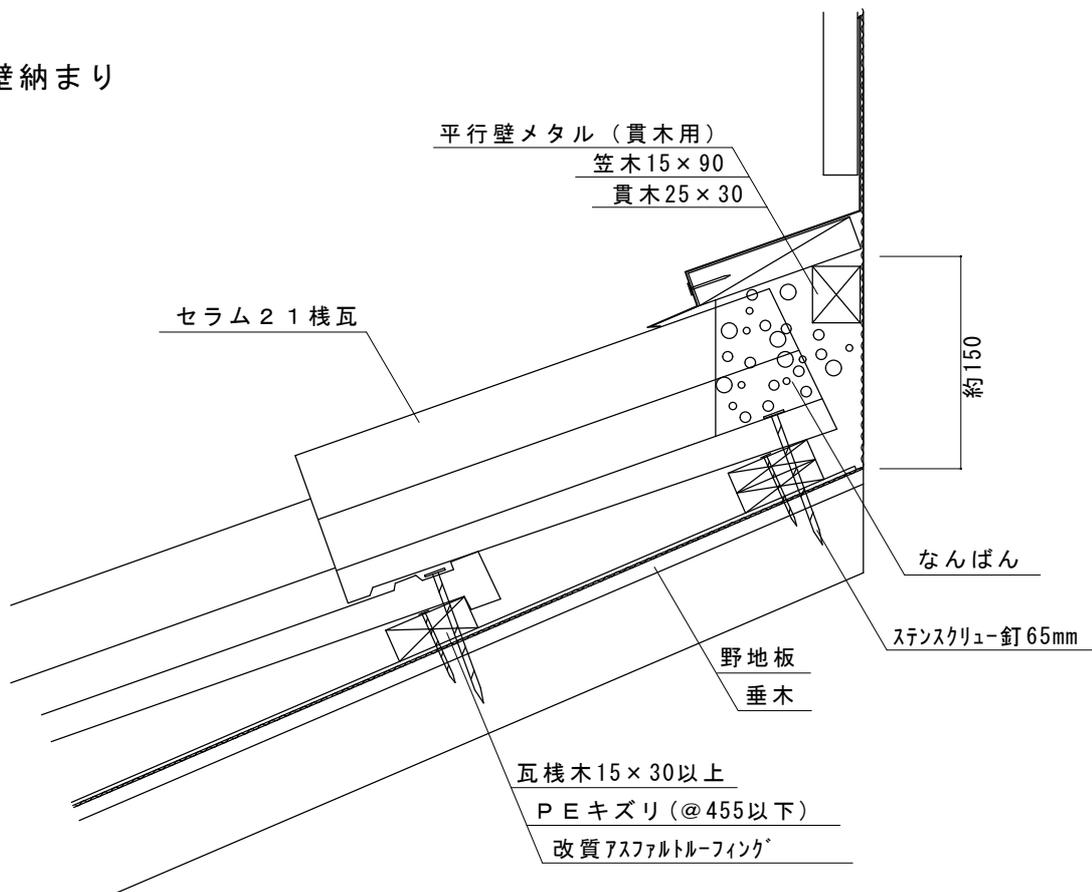
※瓦は焼き物の為、瓦の大小がやむをえず生じます。その為瓦棧木の施工ピッチ（利足）につきましては、現場の瓦の大きさを確認のうえ決めて下さい。

流れ壁・平行壁納まり

■ 流れ壁納まり

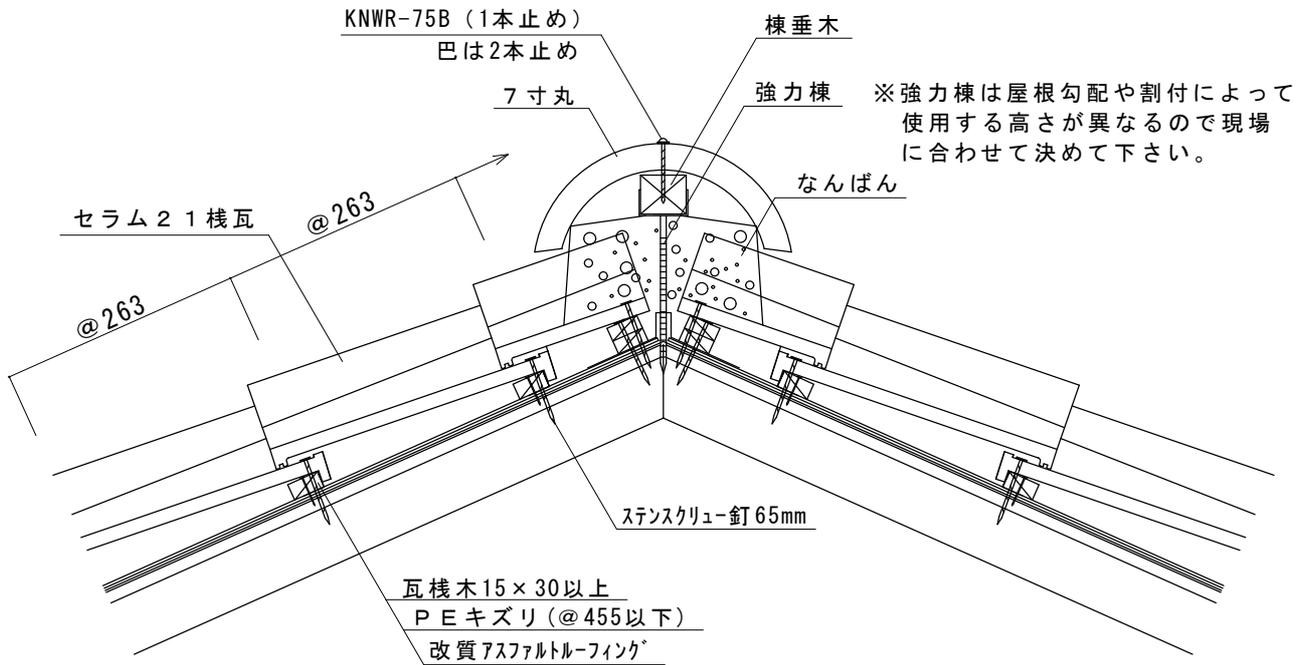


■ 平行壁納まり

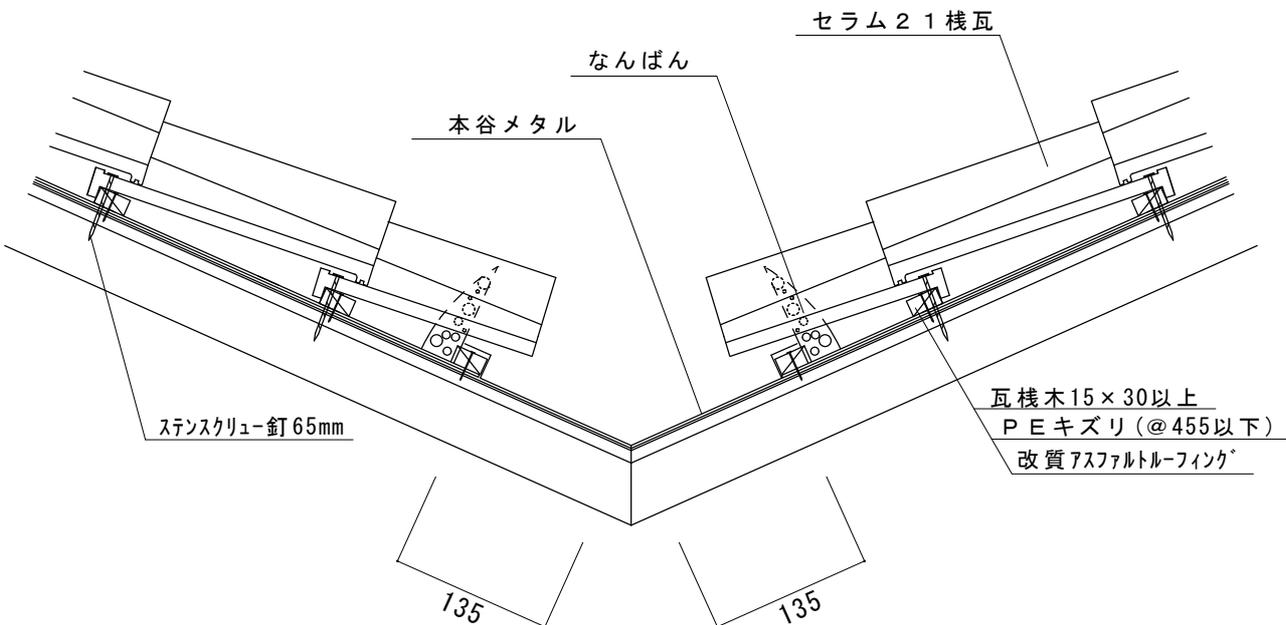


本棟・本谷部の納まり

■棟部の納まり



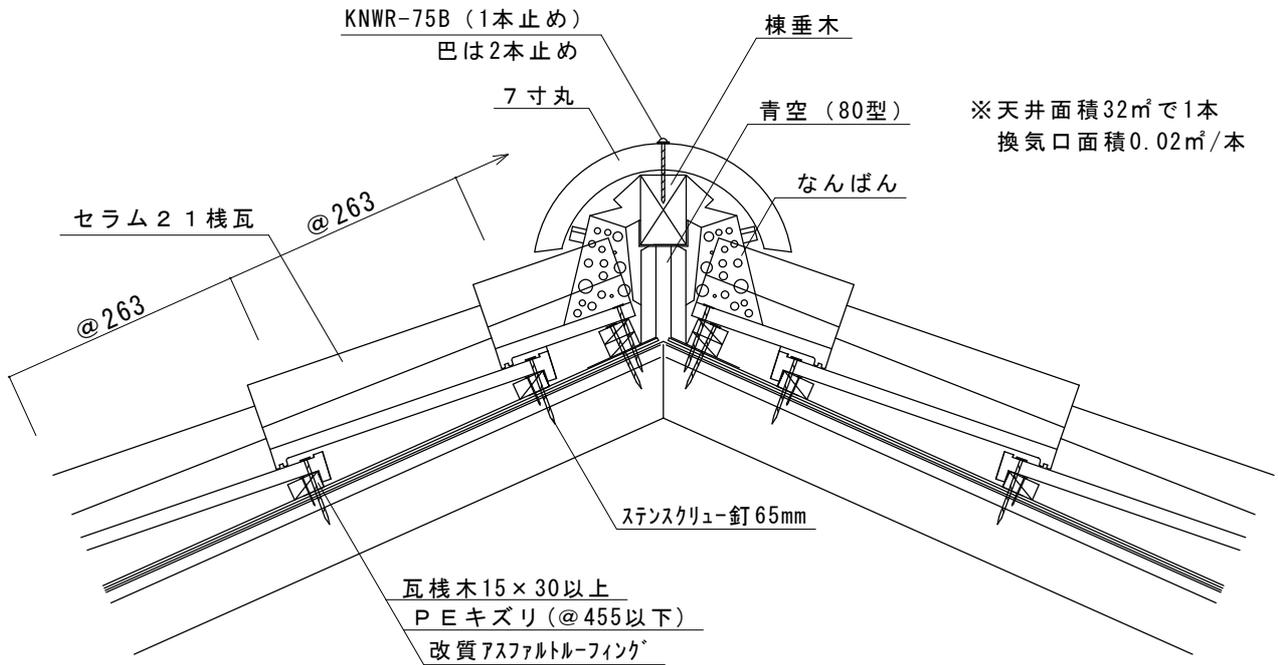
■本谷部の納まり



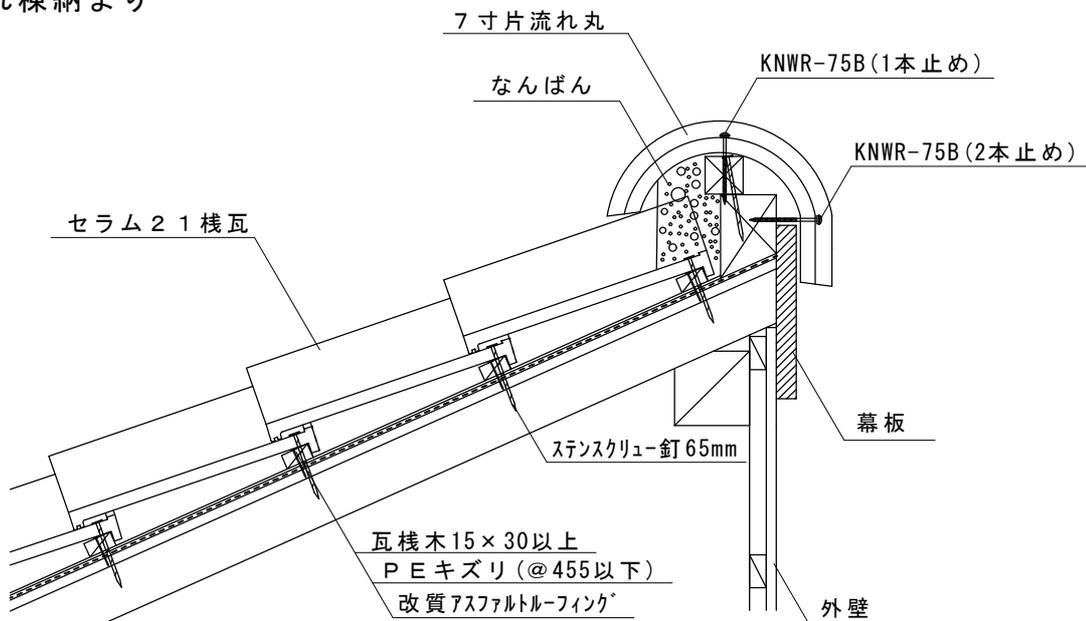
※瓦は焼き物の為、瓦の大小がやむをえず生じます。その為瓦棧木の施工ピッチ (利足) につきまは、現場の瓦の大きさを確認のうえ決めて下さい。

本棟・本谷部の納まり

■換気棟部の納まり (青空の場合)



■片流れ棟納まり



※瓦は焼き物の為、瓦の大小がやむをえず生じます。その為瓦棧木の施工ピッチ (利足) につきまは、現場の瓦の大きさを確認のうえ決めて下さい。

安全上のご注意

瓦屋根工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく工事してください。

- 表示内容を見逃して誤った工事をしたときに生じる危害や損害の程度を、区分し、説明しています。
- 工事終了後、チェックリストにしたがって各部の点検を行い、異常のないことを確かめてください。

警告 この欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

- 屋根工事に際しては、屋根からの転落の危険があります。施工要領書通りに正しい作業を行ってください。
※安全対策を怠ると、落下してケガをするおそれがあります。
- 屋根工事に際しては、必ず転落防止のための防護ネットや足場を設置してください。
※設置を怠ると、落下してケガをするおそれがあります。
- 屋根面から器物が落下しないようにしてください。瓦の積み上げ、破材処理については、施工要領書通り正しい作業を行ってください。
※器物が落下すると、ケガ及び器物破損のおそれがあります

注意 この欄は「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

- 瓦は施工要領書通り必ず緊結してください。
※緊結不良により、瓦のズレ、落下のおそれがあります。
- 瓦の取り扱い時は必ず手袋を着用してください。
※瓦のバリなどによりケガをするおそれがあります。
- 結束された瓦の取り扱い時には結束バンドの強度を確認してください。
※結束バンドの接着不良、劣化等により、結束バンドが切れることがあります。

安全作業のために

作業開始前の点検・確認

- 屋根工事業者は、正しい服装で安全作業をしてください。
- 健康状態に注意して作業をしてください。
- 保護帽はきちんとかぶり、あごひもは確実にしめ、安全帯（命綱）、作業靴（すべりにくいもの）を必ず装着してください。
- グライNDER・サンダーでの切断時には防塵メガネ・防塵マスクを着装してください。

作業における点検・確認

- 屋根勾配・流れ長さ・地域等に適した設計基準になっているか確認してください。
- 屋根下地の施工が完全に行われているか確認してください。
- 整理・整頓に心掛けてください。
- 転落防止の足場を確保してください。
- 機械工具類の安全運転の確認をしてください。

施工後についても養生・保守管理を徹底してください。

施工後の保守・管理

葺き上げた瓦屋根を完全な状態でお施主様に満足をいただくため、屋根施工後、施工業者の方に次の点を十分ご注意くださいよう、指示徹底をしてください。

1. 工事終了後は、必ずゴミやクズなどをきれいに掃除してください。
2. 足場を組む場合は、屋根面に必ず養生板を敷くようにしてください。
※屋根面を足場にして作業する場合は、必ず養生板を敷きこんでください。
3. 作業中、足場から屋根面へ飛び降りたり、物を落としたりするとヒビ割れ、破損を生じ、雨漏りなどクレームの原因となりますので注意指摘してください。
4. 壁面、その他モルタル塗り、リシン吹き付けなどの吹き付け作業に際しては、屋根面のシート養生を徹底するよう指示してください。
※瓦に付着したモルタル、塗料の汚れは、補修できませんのでご注意ください。
5. アンテナ、温水器等の設置止め付け時は、瓦の破損、ずれが生じやすくなりますのでご注意ください。
※重量物を設置する場合、荷重が1点にかからないようにしてください。
6. ハシゴをかける場合には、当木を使ってください。

安全に関するご注意

- 粘土瓦の施工には専門の工事が必要です。専門工事業者にご相談ください。
工事に不備があると、落下・雨漏り等の原因になることがあります。
- 寒冷積雪地域あるいは強風地域では、特殊な工事を必要とする場合があります。
こうした地域で粘土瓦を使う場合には、専門工事業者にご相談ください。
- 粘土瓦を使った屋根は、関連する工事標準仕様書に基づいて設計してください。
特殊な設計を行う場合は、専門工事業者にご相談ください。

標準屋根勾配とその流れ長さ

標準屋根勾配	4. 0 / 10	4. 5 / 10	5. 0 / 10	5. 5 / 10	6. 0 / 10
その流れ長さ	8m	10m	12m	15m	17m

1. これは三州産JIS瓦を安心してお使い頂くための標準値です。
2. 屋根勾配が4. 0 / 10未満のときはご相談下さい。

粘土瓦の特性について

- 瓦は天然素材である自然の粘土を原料とした大型厚物焼成品です。粘土は採取場所によりその成分・性質は微妙に異なり、また同一場所の採取でも全く均一ではありません。このため瓦には、自然素材特有の現象が見られることがありますが、瓦本来の品質・性能に何ら問題はありませので、安心してご利用いただけるようお願い致します。
- 粘土成分の違いや、気圧・気象条件による焼成窯内雰囲気の変化により、微妙な色ムラが発生している場合があります。
- 焼き物特有の若干のネジレや寸法のバラツキがある場合があります。また瓦は重ね合わせて施工していきますので、葺き上げ後に瓦と瓦の間に隙間が発生することがあります。
- 陶器瓦（釉薬瓦）には貫入（かんにゅう）と呼ばれる表面亀裂が発生する場合があります。これは陶器製品特有の現象で生地を焼いて焼結させる場合、粘土と釉薬の収縮率の違いにより釉薬表面に細かい亀裂が発生します。但しこれは製品生地までの亀裂ではなく製品の品質（漏水・強度など）には問題ありません。
- 陶器瓦（釉薬瓦）にはピンホールと呼ばれる小さいへこみや粘土素地の露出が発生している場合があります。釉薬の気泡や粘土に含まれる有機物（イワ木・小石等）などが燃焼して発生するものですが、品質（漏水・強度など）には問題ありません。
- 施工後、日焼けによる色あせやホコリの付着などによる色合いの変化が発生する場合があります。また、住宅の立地条件により瓦表面に緑藻類などの汚れが付着することがありますが、屋根材としての品質・性能及び耐久性を損なうものではありません。
- 袖部からの雨だれは、構造上やむをえず発生します。設計につきましては、ご配慮いただきます様宜しくお願い致します。
- 改良の為、仕様・外観は予告なく変更する場合がありますので、ご了承下さい。